

「声を掛け合い、助け合おう」

30年以内には、60～70パーセントの確率で南海トラフ大地震が起こると言われています。その時を迎える前のヒントになるのではないかと思い、この話を読んでみました。

これは、南海地震の際に妻が一旦逃げたものの、子どもの荷物を取りに家に一度帰ったために津波に巻き込まれて亡くなったという話です。この後、夫は「地震の後は早く逃げるのが大切だ」と語っています。亡くなった妻はもう帰ってこないのです。

私はこの話を読んですぐに「お・は・し・も・ち」という合言葉を思い出しました。小学校の頃から、避難訓練の度に口癖になるくらい口にしてきた言葉です。その中の「も」は、「もどらない」の「も」です。この言葉を守っていれば、妻が家に帰るということはなかったと思います。

私の家は正面に山があり、海もすぐ近くにあるという、災害の危険性が高い場所にあります。家も古く、心配することがたくさんあります。しかし、家族で災害時の避難について話し合ったことはありません。

12月に行われた防災学習で、慶応大学の木村先生から、地震での死者数はいくらかでも減らすことができるということを学びました。そのためには、避難訓練や地域とのコミュニケーションが大切だということです。

私は災害に向けて、まず家族ときちんと話し合っていきたいと思います。家が危険な場所であるということはわかっているので、家族の集合場所や避難経路などを確認したいです。また、私の家の周りはおじいちゃん、おばあちゃんばかりなので、近所に住んでいる人たちとしっかりコミュニケーションを取ることが大切だと思います。「自分の命は自分で守る」をまず心に留め、そして周りの人たちに声を掛け、地域全体でみんなの命を守っていきたいと思います。